



ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー 石丸 修太郎
(札幌西RC)

2月も過ぎ3月は卒業のシーズンですね。スタートは3月1日の道立高校の卒業式でしょうか。母校の関連団体に関わっているため卒業式に呼ばれることが多かったのですが、過去3年はコロナ禍で呼ばれず、今年は久しぶりに参列することができます。厳粛な中での卒業式が終了と言う時に、卒業生の中から「待った」の大声で会場はがらりと変わって卒業生のパフォーマンスとなります。実に趣向を凝らしたもので、青春を感じる楽しいものです。

この3月は、ロータリーにおいて水と衛生の月間です。日本では当たり前にある水が本当に貴重な地域が世界中にあります。日本語で水に流すというと、これまでのことは忘れて、元に戻すというような意味に使いますが、水の不自由な地域ではあり得ない表現ですね。

アメリカのアリゾナの高地で地元の方とキャンプをした時は10km以上埃だらけの道路を走って、井戸のあるところに行き、タンクに水を入れもらい生活に必要な水を得たのですが、6日間風呂に入らずで、7日目に街に降りて来てモーテルでシャワーを浴びたときの爽快感は格別でした。

またモンゴルの草原で現地の方のお宅(ゲルと呼ばれるテント)にお邪魔したとき、日本から持って行った米でご飯を炊くのに、ご飯を研ぐという作業を ちよろちよろ流れる小川で行ったのですが水の量が少なく30分も掛かったことを思い出します。当然生で飲める水は限られ、チャイというお茶で頂くか、羊のスープで頂くかということになります。馬の乳で作った馬乳酒は貴重な水資源でした。

自然界には本当に限られた水資源しかないことをこれだけでも感じた次第です。アフガニスタンで灌漑工事を行って凶弾に倒れた中村さんは、どれだけの偉業をなされたのか胸に熱いものがこみ上げます。

さて、地区においては、1月の国際協議会から戻られた松浦GEが地区チーム研修セミナーを開催してご自分の年度のテーマ「地域に希望を育てよう」を発表されガバナー補佐と地区委員会の委員長の皆様とのお考えを共有されました。





この地区チーム研修セミナーの翌日は第8グループのIMが様似町で開催されました。地域の若くて元気の良い農家さんお二人を壇上にご自分の経営についてお話をいただいた後は、ロータリーについての質問攻めで、外から見るロータリーについて参加者全員と共有させて頂きました。

しかし2月のハイライトは、ロータリー国際スキー同好会のスキーウィークが倶知安町で開催されたということでしょうか、26名の外国の方（アメリカ、オーストラリア、カナダ、アルバニア）のほか関西から20名、信濃から2名、関東から10名それに地元の倶知安RCの方々ということで大変国際色豊かなイベントでありました。幸い天気もそこそこ良く粉雪を楽しんでもらうことも出来たようで、怪我も無く終了しホッとしています。最終日によろやく羊蹄山が顔を出してくれました。第6グループの吉田ガバナー補佐さんが八面六臂の大活躍でホストクラブを務めて頂いた倶知安RCに留まらずグループ内の小樽RC、小樽南RCと蘭越RCを巻き込んで大いに国際親善活動に励まれました。感謝です。

